

大会規則及び選手注意事項

1. 本大会は、2017 年度（公財）日本陸上競技連盟規則ならびに本大会要項及び申し合わせ事項によって行う。ただし、不正スタートについては、新ルールを適用する。
2. 競技場使用について
 - (1) 練習場は指定された場所で行い、係員の指示にしたがって練習をすること。
 - (2) 本競技場は全天候舗装であるので、スパイクのピンの長さは、9 mm以下とする。但し、走高跳は12 mm以下とする。
 - (3) 医務員を本部席に置く。発病・負傷に対しては応急処置のみ行う。
3. 競技者の招集について
 - (1) 招集所は、100m スタート付近後方(器具庫)に設ける。
 - (2) 招集は、トラック競技は開始時刻30分前から行い15分前に完了。フィールド競技は競技開始40分前から行い30分前に完了する。(但し、棒高跳は50分前から行い、40分前に完了し場内で練習させる。)
 - (3) 招集の手順
 - ①第1招集……選手または代理人は、当該種目の招集時刻がきたら、選手招集所に用意された出場選手一覧表の自分のナンバーを○で囲む。招集開始時刻から招集完了時刻5分前までをこれにあてる。
 - ②第2招集……第1招集を終えた選手は、招集終了時刻3分前に招集所の席で待機し、係員による最終点呼を受ける。その際、競技者係にユニフォームのナンバーを見せ、確認を受け、あわせてスパイク、靴底及びバック等の商標の確認を受けた後、係員の誘導で競技場に入る。代理人による最終点呼は認めない。
 - (4) リレーの招集（予選） ※通常の大会と方法が違うので注意

予選の招集は、招集所にて行う。各チームの代表者（1名）は予定された時間までに、オーダー用紙を2部提出し、掲示してあるプログラムに走順を記入する、腰ナンバーを受け取り、選手は最終招集時間までに、それぞれが走るスタート地点で最終点呼を受ける。

なお、決勝については、予選からの選手変更の有無に関わらず、招集開始60分前までにリレーメンバーオーダー用紙に記入の上、競技者係に2部提出すること。
 - (5) 2種目を同時に兼ねて出場する競技者は、招集開始時刻までに「2種目同時出場届け」を競技者係に提出すること。この場合、招集時刻が後の種目の招集は行ったものとみなし、選手は直接現地で最終確認を受けること。審判長がやむを得ないと判断した場合に限り、フィールド競技については試技順を変更して出場させることもある。
 - (6) 招集時刻に遅れた競技者は当該競技には出場できない。
 - (7) 四種競技出場者は最初の種目のみ招集所で、3.(3)の①②に従い競技者係の点呼を受けるが、以後の2種目からについては現地で点呼のみを受ける。なお、トラック、フィールド競技とも15分前に集合すること。
 - (8) 競技への出場をやむを得ず棄権する時は、招集開始時刻までに競技者の所属する学校の関係者がその旨を競技者係に申し出る。
4. 競技運営について
 - (1) トラック競技のレーン順、フィールド競技の試技順は、主催者で抽選してあるのでプログラム記載どおりとする。予選後は、主催者で抽選決定し、掲示により知らせる。なお、トラック競技については、予選タイムレース（リレー競技を除く）とし、上位8名（8チーム）を決勝進出とする。（但し、共通男女1500m、共通男3000mは、1年女子800mはタイムレース決勝とする） 決勝において同記録のためレーンが不足する場合は、1/1000で判定する。更に同記録の場合は抽選にて決定する。
 - (2) レーンで行う競技種目で、棄権者があった場合は、そのレーンをあける。
 - (3) 計時は写真判定（1/100秒）とする。
 - (4) リレー競技においては、その学校の同一のユニフォームを着用すること。
 - (5) 男女800mは1レーンに2人入ってスタートすることがある。レーン順はプログラムに記載

する。

- (6) 共通男子 3000m は安全上 2 段式スタートとすることがある。
- (7) セパレートレーンで行われる競技では、決勝線通過後自分のレーン（曲走路）を走り、他走者の妨害をしないこと。
- (8) 抗議は競技規則第 146 条に従って行う。
- (9) ナンバーは、必ずユニフォームの胸・背部に確実に取り付けること。ただし跳躍種目については胸・背部のどちらかでよい。走幅跳は必ず前面に取り付けること。
- (10) ユニフォームの上衣の端は、ランニングパンツの内側に入れること。

5. 走高跳及び棒高跳のバーの上げ方について

種目	性	練習	競	技
走高跳	男	1m45	1m50-1m55-1m60-1m65-1m70	(以後 3cm ずつ)
	女	1m20	1m25-1m30-1m35-1m40-1m45	(以後 3cm ずつ)
四種 走高跳	男	1m25	1m30-1m35-1m40……1m70	(以後 3cm ずつ)
	女	1m05	1m10-1m15-1m20……1m40-1m45	(以後 3cm ずつ)
棒高跳	男	任意の高さ	2m20-2m40-2m60-2m80-2m90	(以後 10cm ずつ)

- (1) 特殊条件よって変更する場合のバーの上げ方は審判長が決める。
- (2) 第 1 位が同成績の場合、順位決定のためのバーの上げ下げは、走高跳では 2 cm 棒高跳では 5 cm 単位とする。
- (3) 棒高跳の支柱移動については現地の担当審判員にその旨を申し出ること。

6. 走幅跳、砲丸投について

- (1) 計測しないラインをもうける場合がある。共通男子走幅跳 5 m 0 0 cm 共通女子走幅跳 4 m 0 0 cm、共通男子砲丸投 7 m 0 0 cm、共通女子 8 m 0 0 cm とする。但し 1 回目の試技は全員計測する。女子四種競技と女子砲丸投げを兼ねて出場する選手は 3 回とも計測する。
- (2) トップ 8 の試技については、3 回目までの記録の順で行う。

7. 四種競技について

- (1) 四種競技とフィールド競技を兼ねて出場する選手は、単独種目の記録を四種競技の記録とする。走高跳での四種競技を兼ねて出場する選手は四種競技の高さから始めてもよい。男子砲丸投の記録と男子四種砲丸投の記録は兼ねることはできない。
- (2) その他の種目と兼ねる選手については、それぞれ別に競技を行う。

8. 用器具について

競技に使用する用器具は、すべて主催者が用意したものを使用する。ただし、棒高跳用ポールに限り、個人所有のものを使用することができる。個人所有のポールは現地で審判員から検査を受け、合格したものに限る。

9. 表彰について

各種目とも 8 位（リレー 3 位まで）までに賞状を、優勝者には優勝バッジを贈る。
（オープン競技を除く）

10. 全国標準記録突破者について

全国標準記録を突破した競技者（当該学校）には、全国大会出場のための書類を後日配布する。

11. 災害時（悪天候）に関する確認について

- (1) 悪天候の場合は、競技の中断をしたりタイムレース決勝等の措置をとるなどして、競技日程を変更して行う場合がある。
- (2) 大会本部で競技ができないと判断した場合には、大会を中止にすることがある。（原則として期日の延期はしない）